

## 「グローバルヒストリーから見た世界秩序の再考」(仮)

近年、グローバルヒストリーの観点から世界史、世界秩序の再検討が進み、新たな見解が提示されています。出版後15年を経てついに翻訳が出た、K. ポメラントフの『大分岐—中国、ヨーロッパ、そして近代世界経済の形成』(名古屋大学出版会、2015年5月)はその典型です。グローバルヒストリーとは、従来の国民国家、国民史(ナショナルヒストリー)の枠組を相対化して、地球的規模での世界の諸地域や各人間集団の相互連関を通じて、新たな世界史を構築しようとする試みであり、「比較」と「関係性」の二つが、そのキイ概念となっています。

グローバルヒストリー研究の特徴としては、(1) 取り扱う時間軸が長く、数世紀にわたる長期の歴史的動向を問題にすること、(2) 従来の世界史解釈の主流であった欧米世界の歴史を相対化し、ヨーロッパ・西洋中心史観に代わる見方を提示すること、(3) 移民・商人の通商ネットワークなど、地域横断的な問題、疾病(感染症)・生態系・植生(広義の環境史)など、従来の国家の枠組にこだわる研究では軽視されてきた多様な主題を扱うこと、以上の3点をあげることができます。

本特集では、このようなグローバルヒストリー研究の興隆をふまえて、比較と関係性の観点から、近世以降現代にいたる「世界秩序」(国際秩序)の再考をめざしたいと思います。(1) 時間軸としては、モノ・ヒト・カネ・情報の移動を通じて密度の濃い世界諸地域の交流が可能になり、いわゆる「グローバル化」が本格化した「近世」(early modern)から現代にいたる時代のいずれかの時期、(2) 分析の枠組としては、従来の主権国家や国民国家を主体とした一国主義的な西洋中心史観を相対化するために、中華帝国・オスマン帝国などの近世アジアの帝国を含めた、諸帝国体制の競合と共存や、帝国間関係・秩序、19世紀の「国民帝国」論、現代のヘゲモニー国家論など、(3) 具体的なテーマとしては、グローバルヒストリーのなかでも最も研究が進んでいる経済史の分野では、たとえば、貿易・国際金融・移民・技術移転などを通じた経済的な相互依存関係の形成と、その形成・発展・変容を促すうえで重要な役割を果たした「経済外交」の展開などが考えられます。グローバル化の歴史的展開過程を、政治と経済の相互関係から総合的に考察する試みや、文化外交の考察も重要なテーマになります。

ただ、本特集では、グローバルヒストリーの観点を活かした、あるいはその観点と建設的に対話できるような国際関係論、国際政治学の論考、また、ある特定の一国を対象とした外交史研究でも、グローバルヒストリーの観点を部分的に取り入れた研究も、公募の対象となります。史料分析にもとづく歴史の実証研究だけでなく、世界諸地域でのフィールドワークの成果を活かした地域研究の成果や、国際関

係論を歴史的観点から理論的に再検討する論文など、多方面からの御投稿を歓迎します。

論文の応募を希望される会員は、論文のテーマと要旨を 600-800 字程度にまとめ、自宅・勤務先の住所・電話・ファックス・メールアドレスを明記して、2016 年 10 月 31 日（期限厳守）までに、下記の編集責任者にメールでお送り下さい。テーマとの関係、本特集号の全体構成などを総合的に検討したうえで、執筆をお願いする方には、2016 年 11 月 30 日までに御連絡いたします。なお、論文の最終締め切りは、2017 年 5 月 31 日、論文の分量は註を含めて必ず 2 万字以内とします。ご提出いただいた論文は、2 名以上の査読者による査読の対象となります。修正を含め、最終的な掲載の可否は査読後に決定しますので、この点を含めてご了承下さい。

執筆要領については、学会ホームページを御参照下さい。要領を遵守してのご執筆をお願いします。

<http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/documents/shippitsuyoryo.pdf>

お申し込みやお問い合わせは、以下の編集責任者までお願いいたします。

《編集責任者》 秋田 茂

《連絡先》 〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町 1-5 大阪大学文学研究科

電話&Fax 06-6850-5675

E-mail: [akita@let.osaka-u.ac.jp](mailto:akita@let.osaka-u.ac.jp)